

PDCA医療クオリティマネージャー養成

現状と問題

【ニーズ】
医療技術の高度化や国民意識の変化により、安全管理・感染制御を含む医療の質を適正に評価・確保していくことが求められている

【実情】
・大学病院等の高度医療機関では、医療の質の評価と公表がほとんど進まず、国民の期待に充分応えていない
・医療機能高度化を支える病院組織マネジメントが確立されていない
・組織横断的な質改善・安全確保の継続的な取組が不足

原因考察と課題設定

【前提となる考え方】
医療の質管理における総合力には以下が必要
①データ分析能力、②質改善実践能力
③マネジメント力とリーダーシップ

【原因考察】
日本では①の教育は徐々に充実しているが、②は不足し、③の必要性は認識されているが不十分である。

【課題設定】
①②の能力を備えて、高度急性期病院における組織横断的医療の質保証プログラムPDCA(Plan, Do, Check, Act)の反復による医療の質の改善手法の実践を担うとともに、③を備えて病院組織マネジメント改革を担う人材の養成

本事業のアウトプットから課題達成まで

本事業のアウトプット
分析力・実践力・リーダーシップを備えた人材が本事業を修了

中期的アウトカム
本事業修了者が、大学病院をはじめとする高機能病院に従事し、医療の質改善プログラム実践と病院マネジメント改革の原動力となる

長期的アウトカム
医療を適切に評価する文化の浸透により、品質の高い医療を効率的に提供できる医療提供体制の構築

最終的な社会へのインパクト
・高齢化が急速に進展する日本および世界各国において、医療の質と安全を科学的に評価、確保する文化を醸成し、生活と健康の改善に寄与
・我が国の高品質な医療を確保し、メディカルツーリズムを含む医療サービスが輸出産業として発展

養成する能力の目標

①医療の質評価に必要なデータの収集・分析能力
②質改善プログラムの設計と運用実践能力
③これらを実現する組織連携を構築するマネジメント力とリーダーシップ

本事業の教育プログラムの特徴

新規性
・安全管理、感染制御によって失敗を未然に防ぐという範囲にとどまらず、幅広く医療の質を「プラス」に評価できる人材を育成
・医療の情報化の進展とともに急速に増大する医療データの高度利用を担える人材を育成
・PDCAの実践を通して生きた知識を身につけ、大規模組織を有機的に機能させる病院組織マネジメントを担える人材を育成

独創性
・附属病院に設置されるクオリティ・マネジメント・センターと有機的に連携して、実践的な医療改善プログラムからの生きた体験を通じた教育プログラム
・大学院大学の特色を活かし大学院講義を積極的に活用

